

# 火曜午餐会忘年の会

火曜午餐会12月例会は「忘年の会」として7日12時15分から当部5階大会議室にて開催した。

まず最初に、菊池会長が会員への御礼の言葉と共に「今年は、全国では選挙・東京オリンピックが行われ、県内では聖徳太子1400年遠忌が行われた。また、絹谷幸二先生の文化勲章受章という嬉しいニュースもあった。そんな中でも、世界中を涌かせたのは大谷翔平選手。ベープルース以来の二刀流で今後の活躍が楽しみです。来年は五黄の寅年、信貴山もにぎわう事でしょう。本日は、ひとときではございますが奈良フィルの原様と岡野様の演奏をお楽しみください」と挨拶された。

昨年に引き続き、忘年の会はミニコンサート。今年のゲストは、

奈良フィルハーモニー管弦楽団の首席フルート奏者、原祐子さんとピアニスト岡野弥生さん。大原末子団長の挨拶の後、厳かに演奏が始まった。

## ① 〈愛の挨拶／エルガー〉

「威風堂々」で有名なイギリスの作曲家エルガーが、1888年に愛する妻アリスの為に作った曲。

## ② 〈メヌエット／ビゼー〉

「カルメン」で有名なフランスの作曲家ビゼーが、アルフォンス・ドーデの戯曲「アルルの女」の為に作曲した第2組曲の1曲。

## ③ 〈フルートという楽器について〉

フルートは身近な楽器で、音楽教室でも、ピアノ、エレクトーンの次に学ぶ人が多い。頭部管、胴

部管（主管）、足部管の3つに分けてケースに収納出来るようになっている。ピアノの真ん中のドから3オクターブ、ヴァイオリンと同じ位の音域が出る。吹奏楽ではメロディ楽器として活躍し、オーケストラでも鳥のさえずりをイメージさせる場面で使われたり、数多くのソロを担当する。

## ④ 〈Tea for Two (二人でお茶を)／ユーマンス〉

「タヒチ・トロット」という題で、ジャズで1950年代に流行った曲を、クラシックの大作曲家ショスタコーヴィチが、わずか一週間足らずで管弦楽用にアレンジしたと言われている。テレビ番組「サワコの朝」のテーマソングとして流れていた曲。

## ⑤ 〈枯葉／コスマ〉

1945年コスマが作曲、後にジャック・プレヴェールが詞を付けた。第二次世界大戦後のシャンソンとして世界的にも有名なスタンダード。日本でも多くのミュージシャンがカバーしている。

## ⑥ 〈ハンガリー田園幻想曲／ドップラー〉

各地を旅したフルート奏者ドップラーが作曲したフルートと管弦楽のための作品。日本の曲の様なところがあり、日本でも人気があ



る。序奏はハンガリーと東洋を繋ぐ情緒を包含する音楽が展開。中間部に入ると長調に転じ、緩やかにしてテンポの伸び縮みの妙を見せ、フィナーレでは舞踏のリズムが効果的に採り入れられ、華やかな展開を見せる。

原祐子さんは、フルートという楽器についての楽しいエピソードを交えながら、自ら、演奏曲を丁寧に紹介、とても優しい音色でフルートを演奏された。岡野弥生さんの素敵なピアノ伴奏と相まって、とても贅沢で心癒される30分間を過ごした会員は、来年の再会を約束して、今年の最終例会「忘年の会」を終えた。

## 《演奏者プロフィール》

### フルート奏者

#### 原 祐子 (ハラ ユウコ) 様

大阪音楽大学器楽学科フルート専攻卒業。卒業演奏会出演。

曾根亮一、白石孝子の両氏に師事。工藤重典、ウィリアム・ベネット各氏のマスタークラスを受講。工藤重典マスタークラス内のコンサートに於いて1位。大阪音楽大学管弦楽団、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団、奈良フィ

ルハーモニー管弦楽団とクラシック音楽を広げるべく、サロンや個人宅などでのコンサートも企画・演奏し、その確かなテクニックに裏付けされた音楽性としなやかな音色には定評がある。

奈良フィルハーモニー管弦楽団首席フルート奏者。

### ピアニスト

#### 岡野 弥生 (オカノ ヤヨイ) 様

相愛大学器楽科ピアノ専攻卒業。キャリア夏期国際音楽アカデミー（イタリア）や、秋吉台国際音楽ゼミナール（山口）等で研鑽を積む。これまでにソロリサイタルや室内楽音楽リサイタルを開催のほか、奈良フィルハーモニー管弦楽団や樫原交響楽団とピアノ協奏曲を共演。また、奈良市キッズコンサートや大阪市子育て事業「ママのためのお気軽クラシック」などに出演。香芝市ふたかみ市民オペラの伴奏も務める。アンサンブル coto、かりんからん、各ピアノ奏者。

奈良フィル所属ピアニスト。

### 奈良フィルハーモニー管弦楽団

奈良フィルハーモニー管弦楽団

は「奈良にプロ・オーケストラを」と志ある音楽家たちが集い、1985年に初代団長（故）全良雄氏が創立。

メンバーは高度な音楽教育を受け、ソロやアンサンブル等にも活躍するほか、積極的に後進の指導にもあたっている。その音の美しさ、綿密なハーモニーと高い芸術性は聴衆から高く評価を受けている。重厚なクラシックスタイルから親子向けファミリーコンサート、そしてレクチャーコンサートからサロンコンサートまで幅広い顔を持つオーケストラとして奈良県に広く親しまれている。奈良県をはじめとして県内自治体主催コンサートやフェスティバルに、また県内各所の文化会館やホールの主催公演にも多数出演し、地域の文化芸術の発展に貢献している。県外においても近畿一円の公共団体および、各種団体からも招かれ、各地で演奏活動を行っている。今では「わが町・奈良のプロ・オーケストラ」として多くの県民の強い支持を得ている。全国32番目のプロオーケストラとして日本オーケストラ連盟に籍を置く。